

「国際会議に参加して」

沼津工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻 2年

羽切大生

私は、2011年7月にアメリカのボルチモアで行われた米国機械学会「Pressure Vessel and Piping Conference 2011」（圧力容器と配管に関する国際会議）に参加しました。この会議では、主に石油化学プラントなどで使用される圧力容器や配管・ガスケットなどを取り扱っていて、世界各国の研究者により約800件の論文が発表される大きな会議です。私は、ガスケット特性に関する研究をしており、**Student paper competition**（学生論文コンテスト）に申し込み、事前の論文審査を経て、修士・学部の部の**Finalist**（最終発表者）12名の1人に選ばれ表彰されるという得難い経験をすることができました。また、同じ研究室の小賀坂さんも一般の部で発表しました。

今回、なぜ国際学会に参加したのかというと、指導教員の小林先生に勧められて、最初は迷いましたが、学生時代にできることにすべて挑戦したいと思い参加を決断しました。私は、専攻科入学当初から進路は就職と決めていたので、最後の学生生活である専攻科2年間でできる限りのことをしようと思っていました。

論文の作成はととても大変でした。日本語で学会の講演論文を作成したことはありましたが、英語で6ページもの論文を作成することはもちろん初めてで、何度も先生のチェックをうけ、修正して最終的に英語の論文を完成させました。論文作成中に東日本大震災があり、計画停電で電気を思うように使えず、寒い中でなんとか論文を完成させました。

小賀坂さんは、専攻科入学後一年間休学して世界旅行をした経験がありますが、私は海外が初めてでしたので、3月に論文を投稿してから発表に向けて毎日英語をしゃべるトレーニングをしました。発表の準備も大変で原稿を作成して何度も何度も練習しました。発表直前には授業の課題や試験などもあり、苦しかったです。これまでの学生生活の中で最もハードな時期でした。

発表では、練習の成果で、わりあい落ち着いて発表することができました。結果的に私は**Student paper competition**の**Finalist**の中の最後の3人には選ばれませんでした。他の**Finalist**がすべて修士課程の学生という中で自分としては満足のいくものでした。小賀坂さんも一般の部での論文の査読審査を通過し、大学や会社の研究者の中で発表し、会場から高く評価されていました。

私は、「国際会議」での発表という得難い経験をすることができました。国際学会を通じて、何ごとにも挑戦することの大切さや、それをやり遂げるためには日々の努力の積み重ねが大切であることを学びました。発表の後、小賀坂さんと二人でアメリカ国内を2週間ほど旅行して、アメリカの文化に接することができたのもいい思い出です。

国際学会での経験を糧にして、新たなる目標に向けて日々努力していきたいです。

